

## 第3学年1組 道徳科学習指導案

- 1 主題名 気持ちよく生活するために 内容項目 [C 遵法精神、公德心]
- 2 ねらい 登場人物たちの缶コーヒーをめぐるやりとりの場면을役割演技することを通して、責任を他人だけに押し付けたり、自分だけでかかえこんだりすることなく、みんなが安心して過ごせる社会を築こうとする道徳的態度を育む。

教材名 「缶コーヒー」(出典：新編 新しい道徳3 東京書籍)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容について

内容項目「C 主として集団や社会との関わりに関する事」の〔(10) 遵法精神、公德心〕に関する指導内容である。社会には何らかの決まりやルールがあり、無法状態になれば自由は保障されない。人間が集まって社会が形成されると、「私」と「私」の利益がぶつかり合い、まとまりがなくなり、結局それぞれの願いが実現できなくなってしまうことがある。そのため私たちは、社会の秩序と規律を守ることによって、個人の自由が保障されるということを理解することが大切である。遵法精神は、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にすることである「公德心」によって支えられている。自分の好き嫌いにに関わりなく課せられた義務を果たすことが、結果として規律ある安定した社会の実現に貢献することになる。

そこで、指導に当たっては、自他の権利を大切に、義務を果たすことで、互いの自由意志が尊重され、結果として規律ある安定した社会が実現することを理解し、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育て、日々の実践に結び付けていきたい。さらに「自分を裏切らない」という自尊心と、目の前の相手の心情に思いを巡らせ、外見からはうかがい知れない人の心情を想像できる思いやりの心が関わっていることに気づかせたい。

#### (2) これまでの学習状況および生徒の実態について

小学校高学年で「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすことの意義」について学んできている。中学3年生になり、「二通の手紙」という教材では「自分の思いと規則を守ることの意義」について学んだ。

生徒にとって城南中学校での生活も3年目となり、体育祭や合唱コンクール、修学旅行といった行事での練習時間や準備期間において、持ち物の決まりを守りながら、仲間と協力して取り組み、信頼関係を築いてきた。4月には、新入生に無言清掃の方法を共に作業しながら伝えるという貢献活動にも積極的に取り組んできた。委員会活動や部活動でも、後輩たちとともに城南プライドを大切にしながら活動している姿が見られる。一方で、「ルールだから仕方なく守っている」「自分くらいルールを守らなくてもどうにかなる」といったように、一部の生徒はルールを守る意義を理解していなかったり、自己中心的な言動や行動をとってしまったりする姿も見られる。その雰囲気を不快に思いながらも、関わりたくない、私

は関係ないと、その場では何も言わず、日記や面談のときに担任に伝えてくる生徒もいる。そこで、教材を通して、一人ひとりが当事者として関心をもつことの大切さや、他人の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張することの必要性について考えさせたい。そして、決まりを守ることで自分たちの社会を安定的なものにしていることを理解させ、よりよいものに変えていこうとするなど積極的に法やきまりに関わろうとする態度を育てていきたい。

### (3) 教材の特質や活用方法について

この教材は、電車の窓の縁に置いた缶コーヒーが、急ブレーキをきっかけに滑り落ち、主人公の「私」のひざに落ちる場面をもとに、それぞれの「落ち度」について考えるものである。誰か一人に責任を負わせるのではなく、当事者全員が気持ちよく生活するためにはどうすればよいのか考えさせる。本時の導入では、同じ場面に鉢合わせたときに自分だったらどうするか考え、自分事として捉えさせる。展開前段では、この悪い雰囲気になってしまった原因は誰なのか考えさせ、実際にそれぞれの立場に立ち心情に着目させたあと、中心発問に入る。決まりを守ることで自分たちの社会を安定的なものにしていこうとする意欲をもたせるきっかけとして、3つの手立てを挙げる。①ロールプレイング（役割演技）を通して、自己中心的な態度が周りにどのような影響を与えるか体験させる。ありえないと思っていた行動も、実際にやってみると自分も似た態度をとってしまっていたかもしれないと気づくこともできる。②それぞれの立場に立つことで、一人からの視点では見えない事情や、心情などに気づかせ、生徒の思考を深めさせる。③話合いの中で、他の生徒の意見を聞くことで、自分とは異なる考えがあることを知り、受け入れる体験をさせる。そして、これから社会に出ていく生徒たちに、よりよい社会の実現を目指そうとする態度を育てていきたいと考える。

以上の理由から、本主題を設定した。

## 4 学習指導過程

段階		学習活動（○主な発問）	S：予想される生徒の発言	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	気付く	1. 自分だったらどうするか考える。 ○目の前に座る女性のコーヒーがこぼれそう。関わるか、関わらないか。 2. 登場人物や場面についての説明を聞く。	S：関わる。だって、自分にこぼれたら嫌だし。 S：関わらない。だって、嫌な顔されたら傷つくし、周りからも変な目で見られるし……。	・コログノートに書かせる。意図的指名をする。 ・登場人物全員の立場から考えることを伝える。
	展開前段	3. 教材(教師の範読)を読む。 4. 教材を読んで話し合う		・ICTを活用する。 ・登場人物の立場の確認をする。

考 え る		○何が問題なのか。	S：OLの女性の態度。だって、ボリュームを大きくして音楽を聞いているから。 S：OLの女性の言動。だって、缶が落ちたのを電車のせいになっているから。 S：主人公の振る舞い。だって、もっと強く注意しなかったから。 S：竹内さんの行動。だって、主人公が女性に声を掛けたことに気づいていたのに、見て見ぬふりをしたから。	・それぞれに落ち度があることに気づかせる。 ・それぞれの問題となる振る舞いに線を引きさせる。（ペアで確認する）
	コーヒーが「私」にこぼれたとき、OLの女性、「私」、おばさんはどのような気持ちになったのだろう。			
	5. 代表者が役割演技を行う。 ・クラスの代表者が実際に「OLの女性」「私」「竹内さん」を演じる。  ・演じた人、見ていた人に、率直な感想を聞く。  ＜考えさせる視点＞	【私】 ・自分は伝えたのに、最終的に怒られてしまって納得がいけない。 ・悲しい。 【おばさん】 ・もっとはっきり言ったらいいのにな、【私】のことを思ったとしてもこの言い方では伝わらない気がする。	・前日に、班長、学級委員を集め練習をする。  ・すぐにOLの女性が気づいてくれればいいけれど、すべての人が関わろうと思ってくれるわけではない。  【私】が伝えることは実際難しいことを伝える。	
	OLの女性がすぐに気づいてくれたら解決するけれど、実際、社会の中で全ての人が自分と関わってくれるのだろうか。			
展 開 後 段	深 め る	「私」の望ましい振る舞いとは何だったのだろう。		
		6. 個人の考えをもつ。 ○「私」の振る舞いを考える。	【私】 ・目を合わせて話しかける。 ・気づくまで話し続ける。	・ココログノートにメモを取ってもよい。 ・OL女性のような振る舞いになってしまうことはないか考えさせる。

		<p>7. 三人一組で役割演技を行う。</p> <p>○1回終わったら、【私】はどうして、その行為をしたのか、その動機を聞く。</p> <p>○ロールプレイングを行った感想を書く。</p>	<p>【私】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目を合わせて話しかける。 →相手に気持ちを伝えたいから。</li> <li>・気付くまで話し続ける。 →こぼれてしまったら、みんなが困ることを伝えたい。</li> </ul> <p>【OLの女性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【私】が丁寧に伝えようとしていることが伝わった。</li> <li>・ずっと話しかけてくるのが、しつこいなと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ココログノート step 2 に記入。</li> </ul> <p>☆それぞれの立場に立ち、多面的な視点を持つことができていますか。</p>
終末	見 つ め る	<p>8. 自分を見つめながら本時で学んだことをまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の初めに考えた自分の考えを振り返る。関わるか、関わらないか、改めて考えてみよう。みんなが安心して過ごす社会を目指すには、社会の一員として、どのようなことを心掛けたらよいのだろうか。</li> </ul>	<p>S：はじめは面倒なことに巻き込まれたくないから関わりたくないと思っていた。でも、自分が少し勇気を出して関わることで、周りの人も良い雰囲気になることが分かった。周りの人のために行動できる人になりたいと思った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ココログノート step 3 に記入。</li> </ul> <p>☆授業の振り返りを行い、今までの自分を見つめ直し、これからの生活に活かそうとしているか。</p>

## 5 他の教育活動との関連

事前学習	二学期の初めに、二人一組で役割演技をする。一人は自分の好きなもののことについて話し続け、もう一人はそれを聞く。非言語的表現の必要性について、実践を通して考えさせる。
特別の教科 道徳	教材名「言葉おしみ」
事後学習	本時の授業での振り返りを教室の後ろ黒板に掲示し、生徒同士で他者の意見に触れる場面をつくる。
家庭との連携	授業の振り返りを学級通信に掲載し、家庭でも本時の学習について話ができるようにする。

## 6 評価の視点

### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・社会の一員として、法を守ることにについて、ルールを守らない人、ルールを守ろうとする人、傍観者の立場から捉えて考えている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・きまりは何のためにあるのか、きまりを守る意義やあり方について、自分との関わりで考えている。

## 7 板書計画

次世代の担い手として 「缶コーヒー」	場面絵	場面絵	◎コーヒーが「私」にこぼれたとき、OLの女性、「私」、おばさんはどうのような気持ちになったのだろう。	役割演技 「女性」「竹内さん」「私」	○「私」の望ましい振る舞いとは何だったのだろうか。 ○みんなが安心して過ごす社会をつくるには、社会の一員としてどのようなことを心がけたらよいか。
○なぜ、「もっと早く足を引つ込めればよかった」と言ったのか。	・相手があやまっている。 ・反省してくれると思った。・・・	○竹内さんはなぜ怒っているのか。	・悪くないのに、怒らずあやまってしまった。 ・言うべきことをきちんと言えなかった。		